



樹木に鳩図



海辺鶴図

10 樹木に鳩・海辺鶴図（「押し絵」）

木村探元

一巻

絹本着色 江戸時代（十八世紀）
本紙各三二・五×四一・三

この画巻は、団扇形三面、あるいは長方形二面の絹地に花鳥、あるいは人物図を描き、縹色の紙の上に交互に貼り付けて金泥で縁取り装飾したもの。各図の落款印章より、薩摩藩御用絵師として活躍した木村探元（一六七八〜一七六七）の作品である。探元は、地元で狩野派画師・小濱常慶、あるいは坂本養伯に学んだと伝えられるが、私淑していた狩野探幽の画を学ぶため、元禄十六年（一七〇三）に江戸に赴いて探幽の子・探信の門に入り、二年後に帰国した。本作品の各図は、図様、描法等、江戸で学んだ成果が十分に表れているものである。五面の内の二面が花鳥図で、やはり探幽が描いた古画に基づく図様から展開されたものと見られる。丁寧な筆致と彩色には、狩野派らしい美しさを看取出来る。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花鳥―愛でる心、彩る技（若冲を中心に）

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 40

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年三月二十五日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections